

現状技術を否定し、自動車製造を LCA視点でカーボンニュートラルに貢献

脱炭素社会に貢献できる工法を開発し、
世界一のものづくり企業への成長へ取り組んでいます。

九州の中小企業が世界に貢献しなければという思考は、
今までは現実的ではなかったかもしれません。

しかし、サプライチェーン全体に波及するカーボンニュートラルの取り組みは
下請けポジションで思考停止に陥ってる場合ではなくなりました。

「自動車産業の脱炭素化」に有効な溶接レス「Jmec工法」を実現し、
CO2排出量削減の定量化を図り、自動車各メーカーを横断して
部品供給が可能なサプライヤーポジションの確立を目標としています。

この大きな目標達成には相応のリスクも伴いますが、逆にこの挑戦こそが、
自動車産業を生き抜くためのリスクヘッジなのかもしれません。

松本工業は陰しくともこの道を進みます。



現状技術を否定し、自動車製造をLCA視点でカーボンニュートラルに貢献

- 自動車部品の製造工程における鋼板の接合は、多くの電力使用とCO2の排出が課題でした。自社では、独自の金型プレス技術で異なる金属同士を圧着させることにより、溶接しなくても部品の強度を確保できる技術を開発しました。これにより、消費エネルギー量とCO2排出量を飛躍的に低減することができると考えています。またこの脱炭素工法を横展開していきたいと考えています。
- プレス工場永遠の課題となっているプレススクラップ排出を確実に無電源で行うピクシーを開発しました。従来は排出にエアブローを使っていたが、ピクシーはプレス機の上下動作を動力に変換して排出、エネルギーゼロ、ゼロエミッションを実現した画期的製品です。
- 豊前工場ではCO2削減のため、太陽光パネルを設置して自家消費し、また社有車を電気自動車（EV）、ハイブリッド車（HEV）といった次世代エコカーに置き換えており、車両走行時のCO2削減を行っています。
- RFID タグを用いて製品不良条件を解明し、製品良品率の向上活動や在庫の最適化活動を通じて廃棄物削減を実現します。
- 当社が運営する地域スーパー「生鮮市場リエゾン」では、全店舗で環境負荷に配慮した食品包材資材を採用しています。
- 部品生産によるCO2排出抑制活動と共に、当社は自然豊かな豊前市に社有林を保有しています。森林は大気中のCO2を吸収するほか、水の供給元でもあり、また生物多様性の保持にも重要な役割を果たしています。適切に管理する事で環境保全に努めています。



脱炭素工法での製品に付与する
Jmec（自社発環境配慮製品）マーク



溶接レスの新工法でくみ上げた
自動車のシートフレーム



無電源スクラップ排出システム「ピクシー」
グッドデザイン中小企業庁特別賞受賞